

**Arcot RiskFort™**

**クイック インストール ガイド**

**(Windows 用)**

**バージョン 2.2.6**



**455 West Maude Avenue, Sunnyvale, CA 94085**

Arcot RiskFort クイック インストール ガイド  
バージョン 2.2.6  
2010 年 10 月  
部品番号 : RF-0226-QIGW-10

Copyright © 2010 Arcot Systems, Inc. All rights reserved.

本書、および本書に記載されたソフトウェアは、ライセンスに基づいて提供され、ライセンスの条件に従ってのみ使用またはコピーすることが許可されています。本書の内容は情報提供のみを目的としています。本書は予告なしに改訂される場合があります、Arcot Systems は内容に関する責任は問われないものとします。

Arcot Systems は、本書に関して一切の保証も負わないものとします。本書は、商品性の黙示の保証、特定目的適合性の黙示の保証、または第三者の権利の不侵害の黙示の保証から構成されています（ただし、これらに限定されません）。Arcot Systems は、本書の記載の誤り、または本書の提供、記載内容の実行、あるいは使用に関連する、直接的、間接的、特例的、付帯的、もしくは結果的損害について責任を負いません。

ソフトウェアライセンスによって許可される場合を除き、Arcot Systems, Inc の書面による事前の承諾なしに、本書のいかなる部分も、いかなる形式または手段であっても、複製、検索システムへの保存、または伝送を行うことはできません。

## 商標

Arcot®、ArcotID®、WebFort、WebFort VAS® は、Arcot Systems, Inc の登録商標です。Arcot logo™、認証機関のキャッチコピー、ArcotID Client™、ArcotOTP™、ProxyFort™、RegFort™、RiskFort™、SignFort™、TransFort™、および Arcot Adapter™ はすべて Arcot Systems, Inc の商標です。

他のすべての製品名または会社名は、それぞれ各社の商標です。

## 特許

このソフトウェアは、米国特許第 6,170,058 号、6,209,102 号および他の出願中の特許によって保護されます。

Arcot Systems, Inc., 455 West Maude Avenue, Sunnyvale, CA 94085

## サードパーティ ソフトウェア

RiskFort および関連コンポーネントによって使用される、すべてのサードパーティ ソフトウェアは、「Arcot RiskFort 2.2.6 インストールおよび展開ガイド」の付録 G「サードパーティ ソフトウェア ライセンス」にリストされています。

このクイック インストール ガイドは以下のトピックを網羅します。

1. システム要件の確認
2. RiskFort のインストール
3. インストール後の作業の実行
4. 次に行うこと

## システム要件の確認

RiskFort のすべてまたは任意のコンポーネントをインストールするコンピュータは、このセクションにリストされたハードウェアおよびソフトウェア要件を満たしている必要があります。

### ハードウェア要件

RiskFort の最小ハードウェア要件は、以下のとおりです。

- RAM : 1 GB
- ハード ディスク : 10 GB
- プロセッサ : 2.4 GHz

### ソフトウェア要件

RiskFort の最小ソフトウェア要件は、以下のとおりです。

- オペレーティング システム : Windows Server 2003 Enterprise Edition
- サービス パック : SP2 以上
- データベース サーバ :
  - Microsoft SQL Server 2005、Standard Edition (SP2) 以上、および互換性のあるデータベース クライアント
  - Oracle 10g 以上および互換性のあるデータベース クライアント
- ディレクトリ サーバ :
  - Windows Active Directory 2003
  - SunOne Directory Server 5.2
  - SunOne Directory Server 6.1
- アプリケーション サーバ :
  - Apache Tomcat 5.5.23 以上

- IBM WebSphere 6.1 以上
- BEA WebLogic 10 以上

**注 :** 使用しているアプリケーション サーバと最も互換性のある JDK のバージョンを使用してください。

## RiskFort のインストール

単一のシステム上に RiskFort をインストールできます。または、複数のシステムにそのコンポーネントを分散できます。

たとえば、2つのシステムに RiskFort コンポーネントを分散する場合、通常、1つ目のシステム上にサーバ、Administration Console、および UDS コンポーネントをインストールし、2つ目のシステム上に Java SDK およびサンプル アプリケーションをインストールできます。

**注 :** 分散インストールを実行する場合、すべてのターゲット システム上でインストーラを個別に実行し、インストールに必要なコンポーネントを選択する必要があります。

RiskFort をインストールするには、以下の手順に従います。

1. [Arcot-RiskFort-2.2.6-Windows-Installer.exe](#) をクリックして、インストール ウィザードを実行します
2. 画面の指示に従います。
3. [Installation Type] 画面で以下を実行します。
  - 1つのシステム上にすべての RiskFort コンポーネントをインストールする場合は、[**Complete**] を選択します。
  - 異なるシステム上に RiskFort コンポーネントを分散する場合は、[**Custom**] を選択し、次に、[Component Selection] 画面で必要なコンポーネントを選択します。
4. 画面上の手順に従って、インストールを完了します。

**重要 :** [インストール後の作業の実行](#) を続行する前に、必ずシステムを再起動するようにしてください。

## インストール後の作業の実行

このセクションでは、以下について説明します。

1. データソース名 (DSN) の作成
2. データベース スクリプトの実行
3. データベース セットアップの確認
4. Web アプリケーションの展開
5. Administration Console にログインし、ブートストラップする
6. RiskFort サーバの起動
7. Case Management Queuing サーバの起動
8. インストールの確認
9. サンプル アプリケーションの展開および使用

**重要:** 「RiskFort のインストール」の説明に従って、2つのシステムの分散インストールを実行した場合、1つ目のシステムではステップ 1～6 を実行し、2つ目のシステムではステップ 7 のみを実行する必要があります。

### データソース名 (DSN) の作成

Microsoft SQL Server または Oracle データベースサーバの DSN を作成する方法

1. [コントロールパネル] を開き、[管理ツール] - [データソース (ODBC)] - [システム DSN] を選択し、[追加] をクリックします。
2. 必要な DSN タイプを選択し、[完了] をクリックします。
3. データベースの詳細を指定して、DSN を作成します。
4. [OK] をクリックして DSN を作成します。

**注:** 詳細については、データベースベンダーのドキュメントを参照してください。

### データベース スクリプトの実行

RiskFort データベース スキーマをシードする方法

1. 以下にある、適切なデータベースディレクトリ (`mssql` または `oracle`) に移動します。

```
<install_location>\Arcot  
Systems\dbscripts\  

```

```
<install_location>/arcot/dbscripts/
```

2. 以下の順序でスクリプトを実行します。

- `arcot-db-config-for-common-1.0.sql`
- `arcot-db-config-for-riskfort-2.2.6.sql`

### データベース セットアップの確認

RiskFort データベースが正しくセットアップされたかどうかを確認する方法

1. **SYSDBA** 権限を持つユーザで RiskFort データベースにログインします。
2. 以下のクエリを実行します。

```
SELECT SERVERNAME, VERSION FROM  
ARRFSERVERS;
```

以下の出力を参照してください。

SERVERNAME	VERSION
-----	-----
RiskFort	2.2.6
RiskFortCaseManagement	2.2.6

3. データベース コンソールからログアウトします。

### Web アプリケーションの展開

ユーザデータ サービス (UDS) および Administration Console は Web ベースの RiskFort コンポーネントで、サポートされているすべてのアプリケーションサーバ上に展開できます。

- Apache Tomcat
- IBM WebSphere
- BEA WebLogic

これらのアプリケーションを展開するための重要なステップは、次のとおりです。

1. [アプリケーションサーバの準備](#)
2. [UDS の展開および展開の確認](#)
3. [Administration Console の展開、および展開の確認](#)

## アプリケーション サーバの準備

### Apache Tomcat の場合 :

Apache Tomcat で Arcot 専用のファイルをコピーする方法

1. `ArcotAccessKeyProvider.dll` を  
%JAVA\_HOME%\jre\bin\ にコピーします
2. `arcot-crypto-util.jar` を  
%JAVA\_HOME%\jre\lib\ext\ にコピーします。
3. アプリケーション サーバを再起動します。

### IBM WebSphere の場合 :

Arcot 独自仕様のファイルをコピーする方法

1. WebSphere Administration Console にログインします。
2. **[Environment]** - **[Shared Libraries]** をクリックします。
  - a. **[Scope]** ドロップダウンから、有効な可視性範囲を選択します。範囲には、アプリケーションを展開するターゲット サーバまたはノードを含める必要があります。
  - b. **[New]** をクリックします。
  - c. `ArcotJNI` などの名前を入力します。
  - d. クラスパスを指定します。(このパスは、`arcot-crypto-util.jar` が存在する場所を指す必要があります、ファイル名が含まれている必要があります。たとえば、`C:\Program Files\Arcot Systems\ext\arcot-crypto-util.jar` などです。)
  - e. **JNI ライブラリ** パスを入力します。(このパスは、`ArcotAccessKeyProvider.dll` が存在する場所を指している必要があります。)
3. **[Apply]** をクリックして、変更を保存します。
4. サーバレベルのクラス ロードを設定します。
  - a. **[Servers]** - **[Application Servers]** をクリックします。
  - b. 設定が実行されるサーバの設定ページにアクセスします。
  - c. **[Java and Process Management]** - **[Class Loader]** をクリックします。
  - d. **[New]** をクリックします。

- e. **[default Classes loaded with parent class loader first]** を選択し、**[OK]** をクリックします。
  - f. 自動生成されたクラス ロード ID をクリックします。
  - g. クラス ロードの **[Configuration]** ページで、**[Shared Library References]** をクリックします。
  - h. **[Add]** - **[ArcotJNI]** - **[Apply]** をクリックします。
  - i. 変更内容を保存します。
5. `ArcotAccessKeyProvider.dll` を  
<JAVA\_HOME\_WebSphere>\jre\bin\ にコピーします
  6. WebSphere を再起動します。

### BEA WebLogic の場合 :

WebLogic サーバに Arcot 専用ファイルをコピーする方法

1. `ArcotAccessKeyProvider.dll` を  
%JAVA\_HOME%\jre\bin\ にコピーします
  2. `arcot-crypto-util.jar` を  
%JAVA\_HOME%\jre\lib\ext\ にコピーします。
- 注:** 必ず WebLogic によって使用される適切な <JAVA\_HOME> を使用してください。
3. WebLogic Administration Console にログインします。
  4. **[Deployments]** に移動します。
  5. **[Lock and Edit]** オプションを有効にします。
  6. **[Install]** をクリックし、`arcot-crypto-util.jar` が含まれるディレクトリに移動します。
  7. **[Next]** をクリックし、Application Installation Assistant を開きます。
  8. **[Next]** をクリックして、**[Summary]** ページを表示します。
  9. **[Finish]** をクリックします。
  10. 変更を有効にします。
  11. サーバを再起動します。

## UDS の展開および展開の確認

アプリケーション サーバに UDS WAR ファイルを展開する方法

1. アプリケーション サーバに `arcotuds.war` を展開します。このファイルは以下から入手できます。

```
<install_location>\Arcot  
Systems\java\webapps\
```

**注:** 展開手順は、使用しているアプリケーションサーバに依存します。詳細な手順については、アプリケーションサーバベンダーのドキュメントを参照してください。

2. (**WebSphere のみ**) アプリケーションファイルが更新されると、UDS クラスを再ロードするように設定します。

- a. **[Application] - [Enterprise Applications]** に移動し、UDS 設定ページにアクセスします。
- b. **[Class loader order]** で、**[Classes loaded with local class loader first (parent last)]** オプションを選択します。
- c. **[WAR class loader policy]** で、**[Single class loader for application]** オプションを選択します。
- d. **[Apply]** をクリックして、変更を保存します。

3. アプリケーション サーバを再起動します。
4. UDS が正しく開始したかどうか確認するには、以下の手順に従います。
  - a. 次のディレクトリに移動します。

```
<install_location>\Arcot Systems\logs\
```

- b. 任意のエディタで `arcotuds.log` ファイルを開き、以下の行を見つけます。
  - Initializing Arcot User Data Service (Version: 1.0.9)
  - Arcot User Data Service initialized successfully.

これらの行は、UDS が正常に展開されたことを示しています。また、ログファイルには **FATAL** および **WARNING** のメッセージが含まれていないことを確認することをお勧めします。

## Administration Console の展開、および展開の確認

アプリケーション サーバに Administration Console WAR ファイルを展開する方法

1. アプリケーション サーバに `arcotadmin.war` を展開します。このファイルは以下から入手できます。

```
<install_location>\Arcot  
Systems\java\webapps\
```

**注:** 展開手順は、使用しているアプリケーションサーバに依存します。詳細な手順については、アプリケーションサーバベンダーのドキュメントを参照してください。

2. アプリケーション サーバを再起動します。
3. コンソールが正しく起動したかどうか確認するには、以下の手順に従います。
  - a. 次のディレクトリに移動します。

```
<install_location>\Arcot Systems\logs\
```

- b. 任意のエディタで `arcotadmin.log` を開き、以下の行を見つけます。
  - Arcot Administration Console v1.0.9
  - Arcot Administration Console Configured Successfully.

これらの行は、コンソールが正常に展開されたことを示しています。また、ログファイルには **FATAL** および **WARNING** のメッセージが含まれていないことを確認することをお勧めします。

## Administration Console にログインし、ブートストラップする

1. Web ブラウザウィンドウで、Administration Console を起動します。以下が Administration Console の URL です。

```
http://<host>:<port>/arcotadmin/  
masteradminlogin.htm
```

ここで、*host* および *port* は、コンソールを展開したアプリケーションサーバのものである必要があります。

2. デフォルトの MA クレデンシャルを使用してログインします。
  - ユーザ名 : **masteradmin**

- パスワード : **master1234!**
3. **[Begin]** をクリックして、ブートストラップ プロセスを開始します。
  4. **[Old Password]**、**[New Password]**、**[Confirm Password]** を入力し、**[Next]** をクリックします。
  5. UDS 設定パラメータを指定します。デフォルトをそのまま使用できます。
  6. デフォルトの組織の **[Display Name]** および **[Authentication Mechanism]** を指定し、**[Next]** をクリックします。
  7. **[Continue]** をクリックして、ブートストラップ プロセスを完了します。

## RiskFort サーバの起動

RiskFort サーバを起動する方法

1. デスクトップ ウィンドウ上の **[スタート]** ボタンをクリックします。
2. **[設定]** - **[コントロール パネル]** - **[管理ツール]** - **[サービス]** に移動します。
3. **[Arcot RiskFort Service]** を見つけてダブルクリックします。
4. サービスのウィンドウで、**[開始]** をクリックします。

## Case Management Queuing サーバの起動

Case Management Queuing サーバを起動する方法

1. デスクトップ ウィンドウ上の **[スタート]** ボタンをクリックします。
2. **[設定]** - **[コントロール パネル]** - **[管理ツール]** - **[サービス]** に移動します。
3. **[Arcot RiskFort Case Management Queuing Service]** を見つけてダブルクリックします。
4. サービスのウィンドウで、**[開始]** をクリックします。

## インストールの確認

インストールを確認する方法

1. 次のディレクトリに移動します。

```
<install_location>\Arcot Systems\logs\
```

2. 任意のエディタで `arcotriskfort.log` を開き、以下の行を見つけます。

- STARTING Arcot RiskFort 2.2.6\_w
- Arcot RiskFort Service READY.

また、ログ ファイルには **FATAL** および **WARNING** のメッセージが含まれていないことを確認することをお勧めします。

## サンプル アプリケーションの展開および使用

サンプル アプリケーションを展開する方法

1. **[設定]** - **[コントロール パネル]** - **[管理ツール]** - **[サービス]** に移動します。
2. アプリケーション サーバ サービスを停止します。
3. 以下の場所から `riskfort-2.2.6-sample-application.war` を展開します。

```
<install_location>\Arcot Systems\samples\java\
```

**注:** また、パッケージには `riskfort-2.2.6-sample-application.war` もありますが、上記の場所のみからサンプル アプリケーション ファイルを展開することをお勧めします。

4. 以下の URL を指定して、サンプル アプリケーションにアクセスします。

```
http://<host>:<port>/riskfort-2.2.6-sample-application/index.jsp
```

5. (分散インストールのみ) サンプル アプリケーションを、RiskFort サーバと通信するように設定します。
  - a. エディタ ウィンドウで `riskfort.risk-evaluation.properties` ファイルを開きます。このファイルは以下から入手できます。

```
<AppHome_riskfort-2.2.6-sample-application>/WEB-INF/classes/properties/
```

- b. 以下のパラメータの値を設定します。

- `HOST.1`
- `PORT.1`

6. アプリケーション サーバを再起動します。
7. 画面の指示に従い、次の手順を実行します。
  - a. RiskFort データベースに作成されていないユーザのリスク評価を実行します。
  - b. RiskFort データベースでユーザを作成します。
  - c. 同じユーザのリスク評価を実行します。

- /external/xmlParserAPIs-2.6.2.jar
- /external/xom-1.1.jar
- /external/servlet-api-2.4.jar

2. `log4j.properties.risk-evaluation` および `riskfort.risk-evaluation.properties` ファイルを設定します。

- アプリケーションにすでに設定済み `log4j` ファイルがある場合、これと以下のファイルをマージします。
  - `<install_location>/Arcot Systems\sdk\java\properties\log4j.properties.risk-evaluation`
  - `<install_location>\Arcot Systems\sdk\java\properties\riskfort.risk-evaluation.properties`
- アプリケーションで `log4j` ファイルがまだ設定されていない場合、以下の手順に従います。

- i. `log4j.properties.risk-evaluation` の名前を `log4j.properties` に変更します。
- ii. `riskfort.risk-evaluation.properties` と `log4j.properties` をマージします。
- iii. `log4j.properties` ファイルを `<APP_HOME>/WEB-INF/classes/properties/` にコピーします。

## 次に行うこと

インストール後のタスクを完了した後は、RiskFort によって提供される Java アプリケーションプログラミング インターフェース (API) および Web サービスを設定する必要があります。

- リスク評価 Java SDK の設定
- 発行 Java SDK の構成
- Web サービスの設定

## リスク評価 Java SDK の設定

RiskFort リスク評価 SDK を設定するには、以下の手順に従います。

1. `ARCOT_HOME/sdk/java/lib/` から、JAR ファイルを `<APP_SERVER_HOME>` ディレクトリの適切な場所にコピーします。(たとえば、Apache Tomcat では、この場所は `<APP_HOME>/WEB-INF/lib/` です。)
  - /arcot/arcot\_core.jar
  - /arcot/arcot-riskfort-evaluaterisk.jar
  - /arcot/arcot-riskfort-mfp.jar
  - /arcot/arcot-pool.jar
  - /external/bcprov-jdk14-139.jar
  - /external/commons-httpclient-3.1.jar
  - /external/commons-lang-2.0.jar
  - /external/commons-logging-1.0.4.jar
  - /sdk/java/lib/external/commons-pool-1.4.jar
  - /external/json-lib-0.7.1.jar
  - /external/log4j-1.2.9.jar
  - /external/oro-2.0.8.jar
  - /external/xalan-2.7.0.jar
  - /external/xercesImpl-2.6.2.jar
  - /external/xml-apis-1.0.b2.jar

## 発行 Java SDK の構成

RiskFort 発行 SDK を設定する方法

1. `ARCOT_HOME/sdk/java/lib/` から、JAR ファイルを `<APP_SERVER_HOME>` ディレクトリの適切な場所にコピーします。(たとえば、Apache Tomcat では、この場所は `<APP_HOME>/WEB-INF/lib/` です。)
  - /arcot/arcot\_core.jar
  - /arcot/arcot-riskfort-issuance.jar
  - /arcot/arcot-pool.jar
  - /external/bcprov-jdk14-139.jar
  - /external/commons-beanutils-1.7.0.jar
  - /external/commons-collections-3.1.jar
  - /external/commons-lang-2.0.jar
  - /external/commons-logging-1.0.4.jar

- /external/commons-pool-1.4.jar
  - /external/dom4j-1.6.1.jar
  - /external/jaxen-1.1-beta-8.jar
  - /external/jdom-1.0.jar
  - /external/log4j-1.2.9.jar
  - /external/oro-2.0.8.jar
  - /external/xalan-2.7.0.jar
  - /external/xercesImpl-2.6.2.jar
  - /external/xml-apis-1.0.b2.jar
  - /external/xmlParserAPIs-2.6.2.jar
  - /external/xom-1.1.jar
2. `log4j.properties.riskfort-issuance` および `riskfort.issuance.properties` ファイルを構成します。
- アプリケーションにすでに設定済み `log4j` ファイルがある場合、これと以下のファイルをマージします。
    - `<install_location>\Arcot Systems\sdk\java\properties\log4j.properties.riskfort-issuance`
    - `<install_location>\Arcot Systems\sdk\java\properties\riskfort.issuance.properties`
  - アプリケーション `log4j.properties` ファイルがまだ設定されていない場合、以下の手順に従います。
    - i. `log4j.properties.riskfort-issuance` の名前を `log4j.properties` に変更します。
    - ii. `riskfort.issuance.properties` と `log4j.properties` をマージします。
    - iii. `log4j.properties` ファイルを `<APP_HOME>/WEB-INF/classes/properties/` にコピーします。
3. 以下の WSDL を使用して、各クライアントのコードを生成します。
- [ArcotRiskFortEvaluateRiskSvc.wsdl](#) : リスク評価 Web サービス用。
  - [ArcotRiskFortIssuanceSvc.wsdl](#) : 発行 Web サービス用。
4. アプリケーション サーバを再起動します。
5. ブラウザ ウィンドウで、以下の URL にアクセスして、クライアントが Web サービスにアクセスできるかどうか確認します。
- リスク評価 :  
[http://<RISKFORT\\_SERVER\\_IP>:<PORT>/services/RiskFortEvaluateRiskSvc](http://<RISKFORT_SERVER_IP>:<PORT>/services/RiskFortEvaluateRiskSvc)
  - 発行 :  
[http://<RISKFORT\\_SERVER\\_IP>:<PORT>/services/RiskFortIssuanceSvc](http://<RISKFORT_SERVER_IP>:<PORT>/services/RiskFortIssuanceSvc)

## Web サービスの設定

RiskFort Web サービスを使用している場合、以下の手順に従います。

1. アプリケーション サーバを停止します。
2. 次のディレクトリに移動します。

```
<install_location>\Arcot
Systems\wsdls\riskfort\
```